



鳩間小中だより

パトウマ

やよい
弥生

第14号



鳩間小中学校校章

3月

発行日：令和6年3月18日(月)

発行者：竹富町立鳩間小中学校

校長 川端 修

令和5年度卒業式

心地よい南風が吹き抜けるこの良き日に、私達は卒業を迎えます。本日は、このような晴れやかな卒業式を挙げてくださり、誠にありがとうございます。また、皆様からこころ温まるお祝いの言葉と励ましの言葉をいただき、心よりお礼申し上げます。

そして、コロナウイルスによる規制が解除され、無事卒業式を迎えられたことを嬉しく思います。今、鳩間島での生活を振り返ると、本当に様々な思い出が甦ります。2022年春、長野県から鳩間校に転校してきました。転校先の学校はどんなだろうと、期待半分不安半分で迎えた2年生なりたての始業式。2年生2人という新しい学校生活がスタートしました。クラスメイトとは性格が正反対でしたが何故か気が合い、楽しい学校生活となりました。1年生の頃の私には、学校へ行くのが辛い、という日がよくあり、時々学校を休んでいました。しかし鳩間島に来てからは辛い日が減りました。少人数ならではの授業や、活動の良さを体験できたからだと思います。そして鳩間島での生活は、私にとって驚きの連続でした。転校前の学校とは違い、地域の方や海と触れ合う機会が多く、とても貴重な体験をたくさんしました。3年生になり、新型コロナウイルスが五類に移行したことで、制限が大幅に緩和されました。コロナ明けということで最初は戸惑いましたが、マスクのない生活に徐々に慣れていき、とても開放的で心が踊ったことを覚えています。コロナウイルスで中止されていた地域や学校の行事にも参加できるようになり嬉しかったです。

そして今年度私は、生徒会長を任されました。行事の挨拶や校則改定などの活動を通して生徒会長としての責任や達成感を感じることが出来ました。私は生徒会長になって本当によかったと感じています。

また、高校受験で島を離れる際には、たくさんの方が応援を送ってくださり大変心強く、嬉しかったです。無事志望校に合格することが出来ました。本当にありがとうございます。在校生の皆さんに伝えたいことがあります。実は、かつて私には苦手な人がおり、その人と気まづくなりました。その時はストレスや気まづさのせいで自分が潰れるくらい苦しくなりました。しかし、気まづいのは会話が無いからだ気づき、会話をするように心がけました。するとその人の良い所や、自分が少し誤解していたことに気づきました。次第にストレスや気まづさが引いていき、気軽に喋れるようになりました。みなさんも苦手な人ができたり、他人と意見が衝突したとしても感情的にならず、話しをすることで問題解決を試みて下さい。きっと良い方向へ進めるはずです。唯一無二の同級生である野澤瞭介さん。鳩間に来たばかりで何も分からなかった私に鳩間について教えてくれてありがとう。瞭介さんと一緒に生活していく中で、新たな気づきや成長がありました。本当にありがとうございます。また、今まで私を育ててくれた両親。たくさん迷惑をかけたと思いますが、わがママを受け入れてくれて本当にありがとうございます。まだまだ迷惑をかけるかもしれません。

しかし、親孝行も少しずつ行いたいと思っていますので、これからもよろしく願います。そして、私達が今まで鳩間島で生活することができたのは、辛いときには励まし、また嬉しいときには一緒に喜んでくださった先生方、そして地域の皆様のおかげです。未熟だった私達の成長をいままで支えてくださり、本当にありがとうございました。鳩間島での生活は、私達にとってかけがえのない一生の宝物になりました。私達は新たな人生を歩みはじめます。今まで鳩間島で培ってきたもの、そして地域の皆様や家族、先生方から受け継いだものを大切にしながら前を向き、1歩ずつこれからの未来に向かって生きていきます。最後になりましたが、皆様へ心から感謝すると共に、鳩間校の益々のご発展を心より祈念し、答辞のことばとさせていただきます。

令和6年3月9日 卒業生代表 けいた

